

はくさん

一歩一歩

第70号 平成21年7月
伊豆市法住寺 瓜島信行 発行

分楽になりました。その後、短期間に一生涯の事を全部経験したと言われる程、いろいろな事が次々と起こりましたが、揺らぐことはありませんでした。

*

では「何の為に生きる」のでしょうか。それは、「仏さんになるため」だったので

す。
仏さんになるといつても、今生で仏さんに成り切ることは無理というものです。それでも一歩でも二歩でも仏さんに近づく、それが私の腹の底に収まった生きる目的だったので。

*

仏さんに近づくということは、「魂をみがく」と言っても良いと思います。

人が亡くなると、その人の魂は肉体を離れ、また別の生命に宿り輪廻します。この世で魂がみがかれば、より高い次元の生命に宿り、逆に魂を汚してしまえば、より低い次元の世界に生まれ変わるといことです。科学的でないと信じ難い方もいるでしょうが、霊魂が存在しているという事例は、世界各国に沢山あります。

京セラ創業者の稲盛和夫さんは、「魂」では抽象的で誤解されやすいということ、「意識体」という言葉を使っています。著

書「稲盛和夫の哲学」の中で、臨死体験した知人の話から、「心臓発作で倒れ、心臓が止まり、一般的にいえば意識がなくなつた。それでも当時のことを覚えている。これが、肉体とは別に意識体があつてもおかしくないと私が思う一つの理由です」と書いています。意識体の品格を高める、それが生きることの目的といえるでしょう。

*

ではどうしたら魂をみがけるでしょうか。お釈迦さまは六波羅蜜を説いています。その中でも、布施「世の為、人の為になる」、持戒「約束や規律を守る」、忍辱「にんにく我慢する。ただ我慢しても、しかめっ面しているのではなく、明るく前向きな気持ちをもつ」、精進「一生懸命働く」の四つは、今の世の中で、特に実践したいことでしょう。

*

Kさんは、多くの苦勞はありましたが、一つ一つを乗り越え、明るい気持ちで、一生懸命働きました。魂はみがかれ、旅行に行けなかった残念さはあるにしても、頑張ってきて良かったと清々しい思いしていると、寂しい中にも感じたのでした。

そして改めて、一生懸命働くことが幸せであり、魂をみがくことが幸せなんだと、Kさんから学んだのでした。

先日、京浜地区の檀家さんのお葬儀を行ってきました。Kさんは、九州から出て来て結婚、家庭を築き、お子さんを育て、四十代後半でご主人を亡くされ、それでも明るく前向きに頑張ってきました、一生懸命に働きました。定年後の仕事も終え、旅行も沢山したいと思っていたのですが、病にはかてませんでした。

*

参列の方々は、よく頑張られたKさんに慰勞と冥福の気持ちをささげ、そして「私たちは、何の為に生きていくの」と、改めて問いかけていた様に思います。
私は若い頃、この「何の為に生きるのか」で、随分考え悩みもしました。先人の考えは参考にはなつても、そのまま自分のものにはなりません。そんなある日、お経を誦して、ストーン！と腹の底に納まるものがあつたのです。納まつたお蔭で、随

お寺の庭に花いっぱい

昌子寺庭の山務日誌より

苦しい時が幸せでした

ある老婦人の入院見舞いに伺った時のことです。酸素マスクをつけたながらの面会でしたが、その方はしっかりと口調で「……いろいろと ありがとうございませす。…出来ればあと三年、生きてみたいと思いますが。そればかりは、お祖師さまが、どうお考えになられるか……」と、おっしゃいました。「この方は、もう正直に、ご自分の死期を悟っておられて、

なお、お祖師さまに一切をゆだねられている」と、直感致しました。そのことに圧倒されてか、私は「あと三年」の意を問いただすことができませんでした。同時に、今（この時にも）、私に、「生き抜く」という神々しいまでのお姿を見せてくれているとも、思えました。長い間、幾多の悲しみや苦しみを、お題目を抛りどころとして乗り越えてきた方であることを知っている私には、よくわかりました。

*

その後、退院されて自宅に戻られ、玄関の前で優しい笑顔で写真を撮り、自ら「あ

りがとう」と直筆を添えて、お便りを頂きました。私も「良かったですね。野あざみが咲きましたね。」と、返事をお書きました。そしてそれから間もなくして、亡くなられたのでした。

住職が枕経に伺った時、枕辺の縁側の向こうに、花みずきが咲いていて、その清楚な白花が慈雨にしっとり濡れている様は、「これぞ枕花」と思ったそうです。

*

病院から自宅に帰って、そのいっぱいの花みずきをいっぱい見ながら、家族の方々とゆっくりお別れの時を過ごされたことでしょう。悲しい別れとなりましたが、その中にも、この老婦人が残してくれた「生き抜く姿」は、ご家族の皆さんは元より、私たち回りの者にまで、深い感銘を与え、一筋の光となって、今なお生き続けております。

それは「苦しい時ほど、幸せだった」ということ。ご主人に先立たれ、娘さんにも先立たれたけれども「苦しい時ほど、頑張れる自分があった」ということ。自分を奮い立たせる様に胸を張って、何よりの勇気を与えてくれるものでありました。

*

「あと三年」は、亡き娘さんの子、つまり

孫が成人するまで見届けたいとの願いだったのです。「大丈夫」。しっかりと、おばあさんの「生きる姿」を受継いで、たくましく生きていけることと思えます。私も「苦しい時ほど、頑張れる自分」になれる様、精進したいと思えます。

トピックス

花まじり

五月連休の最後は「花まつり」。今年、佐治麻希さんの紙芝居「つるの祈り」でした。原爆で亡くなった佐々木禎子さんの話を、心を込め熱を込めて、全国各地で語り続けています

小鳥の巣

本堂の軒下で小鳥が子育て。毎朝の大太鼓にあわせて



いたく 小鳥の赤ちゃん



身延山輪番

今年の身延山輪番奉仕に、二十五人の皆さんが参加されました。
ご先祖さまのお墓詣りをするよう
に、お祖師さまに
年に一回はお詣り
しましょうと呼び
かけていますが、
毎年参加の皆さん
には、頭がさがり
ます。



大洋入学

お祖師さまにお詣りして、これから小学校入学式です。

賑やかにさえずっていましたが、無事に巣立ちました。尾がピンと張り、綺麗な小鳥でした。

ロープウェー下の駐車場奥から新設されたエレベーターで境内に登り、落慶したばかりの五重塔を見上げ合掌。今年は、大洋が小学生になりましたので、お祖師さまに報告のため一緒にお詣りしました。東部宗務所主催で、三百六十人での輪番でした。

境内整備作業



作業が終って、木陰でひと休み

夏の境内整備作業は小川の皆さんでした。暑い中の草刈りや草取りは汗だくだく、何時もありがとうございませす。

十二日講、れんげの会の皆さんも草取り作業してくださいました。秋季彼岸のけ境内作業は、清水2の皆さんにお願いします。

お知らせ、募集



お盆の施餓鬼会

八月三日(月)午後三時

お盆のお施餓鬼とお会式には、檀信徒の皆さん、必ずご参加ください。

ご先祖さまに、唱題、ご回向、ご供養致します。



寺子屋道場



第五回目となる寺子屋道場、皆さんの参加をお待ちしています。連絡いただければ詳しい案内をお送りします。

・期日 八月七、八日(金、土)

・対象 小二〜小六の男女

・定員 十五名

・参加費 二千元

・内容 山の探検(カブトムシ捕りなど)、カレー作り、唱題行等



連合大題目講

・期日 九月二十五日(金)

・会場 加殿 妙國寺

・会費 五百円

長岡、大仁、修善寺地区の檀信徒と共に唱

題し、法話を聞き、共に励まし合っていく
行事です。お誘い合っご参加ください。



池上お会式、万灯参加



昨年の池上お会式

- ・法住寺白龍会主催
- ・十月十二日（月、休日）
- ・参加費 四千元（ご家族参加の場合、二人目からは三千円）、幼児く高校生まで無料
- ・定員 六十五人
- ・詳しくはお近くの白龍会メンバーかお寺まで



「もったいない」、大往生をされたおばあさんの口癖です。このおばあさんは、とても明るく筋がとおり、情のある信仰の厚い方でした。このおばあさんは何でも最後まで使いつける名人でもありました。たとえば、身の回りのものから野菜の皮にいたるまで、私ならきつと捨ててしまう様なものも最後まで無駄なく使う、今で言うエコライフの達人でした。

このおばあさんの「もったいない」には現代の失われた、モノへの感謝の気持ちが入っています。それは、モノを単なる物質として見るのではなく、すべてのモノに「いのち」を感じ、尊んでいるのです。この気持ちによって、きつと満足や幸せを感じることが多かったのではないのでしょうか。

* 私たちには、欲があります。お金が欲しい、良い家に住みたいなど。この欲が満たされるともつとお金が欲しい、もつと良い家に住みたいと更なる欲が

出て来ます。上を見て人と比べると、きりがありませぬ。上ばかり見ているとそのうちひっくり返ってしまいます。この欲について法華経には「少欲知足——欲少なくて足ることを知る——」とあります。今で言う「いい加減」です。だから、怠け心の「いい加減」ではなく、「良い加減」です。

おばあさんは自分のある環境のなかで、いかに満足し幸せに生きていくかの「良い加減」をよく分かっていただけたのだと思います。まさに「少欲知足」の方でした。

モノが溢れている今、おばあさんのようにモノの「いのち」を尊び、頂いたことへの感謝の気持ちを持つことが「少欲知足」の第一歩です。仕事や家事にしても「怠けのいいかげん」ではなく、「良い加減」を知り、今の自分にはこれで良いと思える気持ちを持ちたいものです。

* 供養とは「その人の生きざまを受け継ぐ」という意味もあります。お盆を迎え、「少欲知足」、自分の「良い加減」を知り、この記事を書かせて頂いたことをおばあさんへのご供養の一つにさせて頂きたいと思えます。

御志納金 「四月く七月」

百万円	西	森野智喜殿	尊父葬儀
三十万円	清水	山下悦子殿	尊母七七忌
十万円	西	佐藤雄一殿	尊母七回忌
十万円	元村	井本甲男殿	尊母二十七回忌
十万円	川崎市	山下 泰殿	尊祖母一周忌
十万円	元村	飯田政春殿	尊兄一周忌
十万円	元村	飯田昌之殿	尊父一周忌